

FUJITRANS CORPORATION
SUSTAINABILITY REPORT
2025



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた
見やすいデザインの文字を採用しています。



ノンVOC(Volatile Organic Compounds)インキ
大豆油インキの比率をほぼ100%に高めたもの。
大気中への有機化合物の揮発はほとんどあり
ません。



FSC® 認証用紙
この印刷物には、FSC® 認証用紙が使用されて
います。



Waterless
印刷時に有害な廃液がでない「水無し印刷」で
印刷しています。

フジトランス コーポレーション

本社
〒455-0032 名古屋市港区入船一丁目7番41号
TEL:052-653-3111(代) FAX:052-652-7110
<https://www.fujitrans.co.jp/>

2025年6月発行

FUJITRANS CORPORATION
SUSTAINABILITY
REPORT
2025



03	会社概要 グループ一覧	08	脱炭素社会の実現
05	サステナビリティ方針 フジトランス サステナビリティ ビジョン2050 推進体制 目標 登録・認証	10	環境保全と資源の循環利用の最大化
07	事業ハイライト(2024年度)	13	健康経営による働き方改革の促進 健康 DX 安全

編集方針

「フジトランス サステナビリティ レポート」は、フジトランスグループのサステナビリティに対する考え方や取り組み内容をまとめた資料です。事業に直接関連する内容のほか、SDGsやCSRに関する内容も網羅しています。

Webサイト「フジトランス コーポレーション SDGs」<https://www.fujitrans.co.jp/csr/> ▶



対象期間	2024年度(2024年4月1日～2025年3月31日) 一部、前年度から連続する活動内容などを含む
報告サイクル	年次報告として毎年発行
発行	2025年6月(前回:2024年6月)
報告範囲	株式会社フジトランス コーポレーションおよびグループ会社の取り組み
お問い合わせ先	株式会社フジトランス コーポレーション サステナビリティ推進室 〒455-0032 名古屋市港区入船一丁目7番41号

Top message

サステナビリティ方針の達成に向けて

現代社会は、地球温暖化、気候変動、生物多様性の喪失といった環境問題に加え、貧困、格差、人権問題といった社会課題が複雑に絡み合い、その解決に向けた取り組みは、企業にとっても避けて通れない課題となっています。国連が提唱する持続可能な開発目標(SDGs)は、これらの課題への共通認識を示し、社会全体の変革を促す羅針盤となっています。

フジトランスグループは、このような状況を踏まえて2021年にサステナビリティ方針を策定しました。単に法令を遵守するだけでなく、企業活動を通じて社会の発展に貢献し、持続可能な社会の実現に向けて取り組むことを経営の重要な柱として位置づけています。

われわれが直面している重要な課題の一つが、カーボンニュートラルへの対応です。RO/RO船を運航する当社グループは、燃料由来のCO₂の排出を余儀なくされており、事業活動に伴うCO₂排出量の削減が喫緊の課題です。日本政府が2050年までのカーボンニュートラル実現を宣言し、社会全体が脱炭素化へと大きく舵を切中、われわれもこの潮流に積極的に対応していく必要があります。そこで、2030年をマイルストーンとしてCO₂排出量を2019年比で25%削減することを目標に掲げています。

現在、運航効率を最大限に高めるための航路最適化に取り組んでいるほか、船の更新タイミングに伴って省エネ技術の導入を進めています。また、将来の燃料転換を見据え、次世代ゼロエミッション燃料の実用化に向けた技術開

発の動向を注視し、採りうる手段と適切なタイミングでの導入を見極めてまいります。

国内の物流業界全体が抱える共通の課題として、労働時間規制の強化による深刻な人手不足が挙げられます。特に、船員、トラックドライバー、そして現業員における人材確保は、当社グループの事業継続を左右する重要な問題です。物流は「経済を動かす血液」と呼ばれ、社会を支える重要な基盤です。当社グループはその役割を担っているという自負を持ち、物流を止めないための努力を惜しみません。

対策の一つとして、社員一人ひとりが心身ともに健康で、意欲を持って仕事ができる環境づくりに積極的に取り組んでいます。定期的な健康診断の実施やメンタルヘルスケアの充実、柔軟な働き方を支援する制度の拡充、そして社員のスキルアップを支援する研修制度の提供などを通じて、社員エンゲージメントの向上を図っています。

取り組みの一環として2030年までに「健康経営優良法人」の認定を取得することを目標にしました。しかし、2024年に達成したため、目標をステップアップさせて「健康経営優良法人ブライツ500」の認証を新たな目標としました。

また、業務の効率をさらに向上させるために、デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進も不可欠な要素です。当社グループでは2024年にDX方針を掲げ、事業本部ごとにDXの検討チームを組成して取り組んでいます。デジタル技術を積極的に導入し、業務プロセスの抜本的な見直しを図るとともに、新たな事業価値の創造を目指しています。

フジトランスグループは、SDGs方針「フジトランス サステナビリティ ビジョン 2050」の下、変化する社会のニーズに適切に対応し、持続可能な社会の実現に貢献していく決意です。ステークホルダーの皆さまとの建設的な対話を通じて、より良い社会の実現に向けた取り組みを推進してまいります。

代表取締役社長

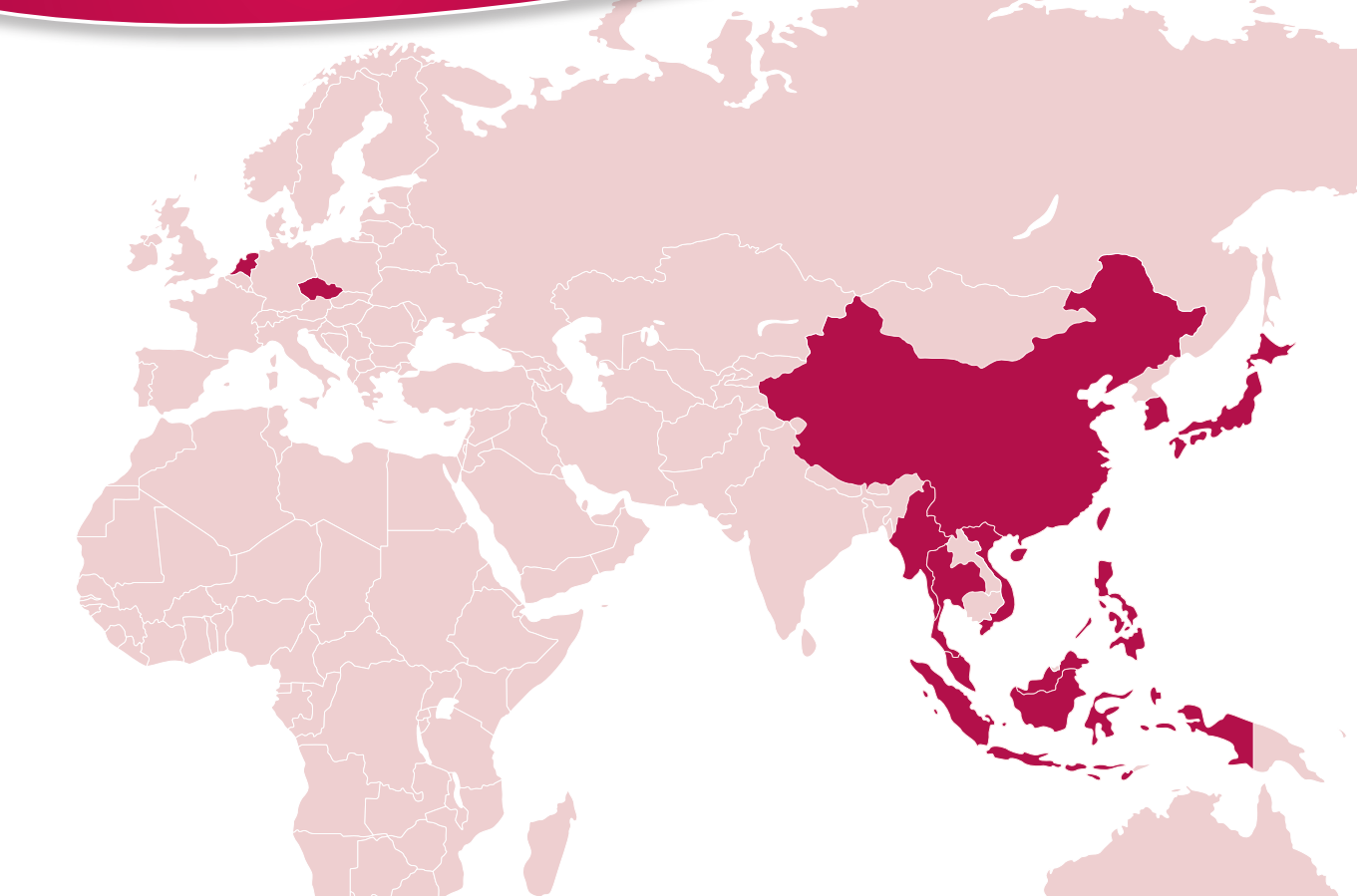
津本 昌彦



会社概要

Company profile

(2025年4月末時点)



当社は1952年に名古屋市港区で創業した創造的総合物流企業です。港湾運送事業・内航海運業を中心に海上・陸上・航空輸送、保管・在庫管理、梱包、通関など物流に関わるあらゆる事業を展開しています。特徴は、内航船舶を運航する船会社としての側面を持っている点です。

設立当初は、木材の荷役を中心とする港湾運送会社でした。1960年代、モータリゼーションによる物流需要の増大を的確にとらえ、1962年に我が国初の自動車専用RO/RO船「東朝丸(とうちょうまる)」を就航させることで内航海運業に本格的に進出。完成車の国内輸送分野で成長し、現在の基盤を確固たるものにしました。今日、北海道から沖縄まで国内に18ヵ所の支店・営業所を有し、海陸一貫で車両・一般貨物輸送を行っています。

一方、輸出入の取扱い範囲とサービスの拡大のため、積極的に海外展開に取り組んできました。1977年、シンガポールで駐在員事務所を立ち上げて以降、フォワーディング業務、船舶代理店業、倉庫業、梱包事業、陸上輸送などへ業容を拡大してきました。現在では北米、欧州、東・東南アジアに法人を置き、物流ネットワークを展開しています。

これら国内外のネットワークを駆使して、完成車(乗用車、農機、建機など)や自動車部品を中心に、農産品、衣料品、化学品、非鉄金属、木材チップなど、さまざまな貨物を取り扱っています。また、長大貨物の輸送にも精通しており、宇宙関連機器や航空機部材、プラントなど豊富な輸送実績があります。

名 称	株式会社フジトランス コーポレーション (FUJITRANS CORPORATION)
本社所在地	〒455-0032 名古屋市港区入船一丁目7番41号
設立年月日	1952(昭和27)年9月29日
資本金	2億円
代表者	代表取締役社長 津本 昌彦

主たる営業種目	港湾運送事業、内航海運業、貨物利用運送事業、 航空運送代理店業、通関業、倉庫業、梱包事業、海上運送業 他
従業員数	(単体)1,405人／(グループ)4,145人
連結対象会社数	34社(2024年度)
事業領域	●国際物流サービス ●国内物流サービス ●保管・梱包 ●港湾荷役



グループ一覧

地 域	国	法 人
日本	日本	●フジトランス コーポレーション ●日藤海運 ●フジトランス ライナー ●オーシャン リンク (2025年4月1日に鹿児島船舶から社名変更) ●富士トランスポート ●厚真ファーム ●興國海運 ●まるしん運輸 ●徳昭船舶 ●アドバンスド フレイツ サービス ジャパン ●朽木合同輸送
北米	アメリカ カナダ	●FUJITRANS U.S.A., INC. ●VASCOR,LTD.
欧州	オランダ チェコ	●FUJITRANS (EUROPE) B.V. ●FUJITRANS CZECH s.r.o.
東・東南アジア	中国 韓国 シンガポール マレーシア タイ ミャンマー フィリピン インドネシア ベトナム	●FUJITRANS (SHANGHAI) CO., LTD. ●BUSAN GLOBAL DISTRIBUTION CENTER, CO.,LTD. ●FT LOGISTICS (ASIA) PTE. LTD. ●TOTAL LOGISTIC SERVICES (M) SDN. BHD. ●FUJITRANS (THAILAND) CO., LTD. ●FUJITRANS LOGISTICS (THAILAND) CO., LTD. ●FUJITRANS (MYANMAR) CO., LTD. ●FUJITRANS LOGISTICS (MYANMAR) CO., LTD. ●FUJITRANS LOGISTICS PHILIPPINES, INC. ●PT. FUJITRANS LOGISTICS INDONESIA ●PT. SENOPATI FUJITRANS LOGISTIC SERVICES ●FUJITRANS (VIETNAM) CO., LTD.

計14カ国

サステナビリティ方針

フジトランス サステナビリティ ビジョン2050

フジトランスグループは、国連が推進するSDGsの考えに賛同し、持続可能な社会の形成に貢献するため、経営理念に基づいて注力すべき重要課題を4つに絞り込みました。そして、これらを長期方針「フジトランス サステナビリティ ビジョン2050」としてまとめ、2050年を目標達成年としました。当社グループが社会・環境と共に持続的に成長・発展していくための指針です。

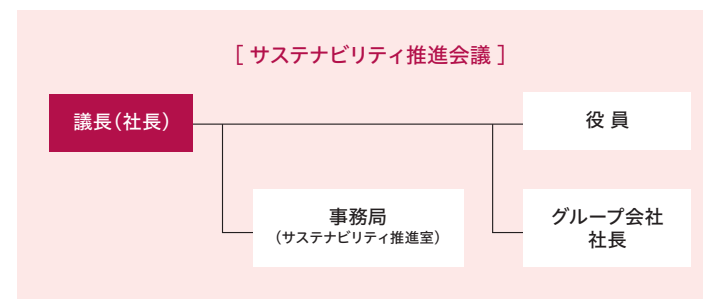
〔経営理念〕

- ① 誠実で公正な企業活動を通じ、社会から信頼される企業を目指す。
- ② 安全で高品質な物流システムの開発に努め、お客様に魅力あるサービスを提供する。
- ③ つねに経営の革新に努め、あらゆる分野へ挑戦し、持続的に発展成長する。
- ④ 地球に感謝し、環境にやさしい活動を実施し、社会・地域に貢献する。
- ⑤ 相互信頼、共通認識を基本とし、社員とその家庭に安らぎを与える企業風土をつくる。

マテリアリティ	脱炭素社会の実現	環境保全と資源の循環利用の最大化	健康経営による働き方改革の促進	SDGs関連の新たな収益モデルの確立
社会・当社の課題	● GHGの把握と削減	● 森林や海洋の環境の保全	● 働きがいのある職場の確保 ● 多様な働き方への配慮 ● 安定的な雇用の維持	● 事業による社会課題の解決
主な施策	● 次世代燃料への対応 ● 再生可能エネルギーの積極利用	● 海洋・森林を含む環境の保全 ● 廃棄物の削減 ● 再資源化製品の積極使用	● 健康経営優良法人の取得・維持 ● DXによる業務効率の改善 ● 社員エンゲージメントの向上	● 社会課題解決に向けた新たなビジネスの創造

推進体制

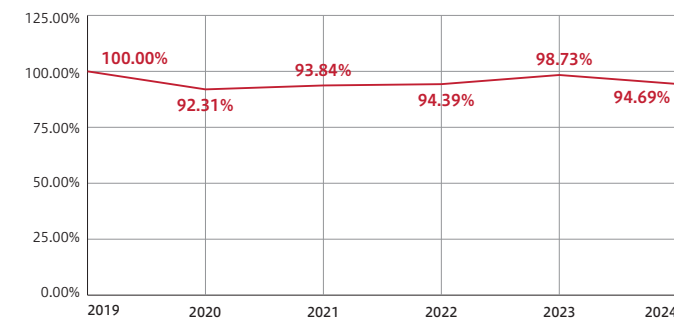
SDGsをグループ共通の課題と捉え、対応するために、グループの経営者で構成する「サステナビリティ推進会議」を定期的開催しています。サステナビリティに関する様々な情報を共有し、取り組みを協議しています。



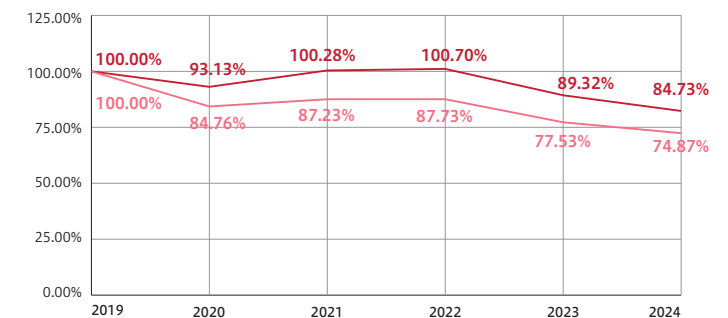
目標

	重点的な取り組み	目標
環境	CO ₂ 排出量削減による脱炭素社会の実現	2030年までに事業所や荷役機器等由来のCO ₂ 排出量を2019年度対比で25%削減する。
環境・経済	資源利用量の削減による環境の保全とコストの削減	2030年までに帳票などの印刷枚数を2019年度対比で25%削減する。 ↓ (2024年度に達成したため、2024年度に目標更新) 2030年までに帳票などの印刷枚数を2019年度対比で50%削減する。 印刷コストを40%削減する。
社会	働きやすい職場づくり	2030年までに「健康経営優良法人」の認定を取得する。 ↓ (2023年度に達成したため、2024年度に目標更新) 2030年までに「健康経営優良法人ブライツ500」の認定を取得する。

CO₂排出量 ((株)フジトランス コーポレーション単体)
(2019年度を100とした場合の比率)



印刷枚数・コスト ((株)フジトランス コーポレーション単体)
(2019年度を100とした場合の比率)



登録・認証

●みなとSDGsパートナー登録制度 (株)フジトランス コーポレーション 朽木合同輸送(株)	〔社会分野〕 ●健康経営優良法人 (株)フジトランス コーポレーション 朽木合同輸送(株)	〔経済分野〕 ●DX認定事業者 (株)フジトランス コーポレーション
〔環境分野〕 ●なごやSDGsグリーンパートナーズ (株)フジトランス コーポレーション 本社 (認定エコ事業所) 朽木合同輸送(株) 本社 (登録エコ事業所)	●国際森林認証制度 (SGEC) (株)フジトランス コーポレーション フジツの森	●内航船省エネルギー格付制度 (株)フジトランス コーポレーション ふがく丸、いずみ丸 (★★★★★) 日藤海運(株)・(株)オーシャン リンク 日昇丸、日侑丸 (★★★★★)

事業ハイライト（2024年度）

2024年 4月

ホームページ リニューアル

㈱フジトランス コーポレーションのコーポレートHPをリニューアルしました。また、採用サイトを新設し、新卒事務職だけでなく現業職、梱包職、船員、トレーラードライバーの採用情報を公開しました。

2024年 5月

新造船「ふがく丸」就航

㈱フジトランス コーポレーションは、内航RO／RO船「ふがく丸」を就航しました。この船は、フジトランスグループが持続可能な社会の形成に貢献するために策定した長期方針「フジトランス サステナビリティ ビジョン 2050」のもと、カーボンニュートラルに向けた「環境にやさしい船」として建造されました。船体サイズの大型化や構造の工夫によって積載能力を向上しながらも、CO₂排出量は先代の同名船と比較して約30％削減できる見込みです。また、8層ある艙内のうち一般貨物用のトレーラー区画では、支柱を無くすことで荷役効率の向上を図っています。



2024年 5月

DX認定制度 認定

㈱フジトランス コーポレーションは、経済産業省が定めるDX認定制度の認定を取得しました。

2024年 5月

FUJITRANS (VIETNAM) CO., LTD. ハノイ支店 設立

㈱フジトランス コーポレーションのベトナム法人 FUJITRANS (VIETNAM) CO., LTD.が、ベトナム北部の首都ハノイに支店を設立しました。ベトナム国内では南部のホーチミン、ロンアンに続き3つ目の拠点になります。

2024年 10月

FUJITRANS (SHANGHAI) CO., LTD. 広州営業所 開設

㈱フジトランス コーポレーションの中国法人 FUJITRANS (SHANGHAI) CO., LTD.が、中国南部 華南地区の広州市に営業事務所を開設しました。

2024年 12月

情報セキュリティ基本方針 策定

フジトランス グループと顧客の情報資産を保護し、信頼性と安全性の確保に取り組むために、情報セキュリティ基本方針を策定しました。

2025年 1月

人権方針 策定

企業の重要な責務として人権の尊重に取り組むため、フジトランス グループの人権方針を策定しました。

人権方針の
詳細はこちらへ



2025年 2月

豊橋支店 新事務所竣工

㈱フジトランス コーポレーション 豊橋支店の事務所を建て替えました。



脱炭素社会の実現

物流は、私たちの暮らしと経済活動にとって大切な機能の一つです。
その役割を果たしながら、地球温暖化の主な原因とされる温室効果ガス、とりわけCO₂を削減し、カーボンニュートラル社会の実現に貢献します。

「ふがく丸」内航船省エネルギー格付制度認定

㈱フジトランス コーポレーションが2025年5月に就航した内航RO／RO船「ふがく丸」が、内航船省エネルギー格付制度で最高の星5つ（計算方法：EEDI）を獲得しました。

この制度は、国土交通省が内航海運のCO₂排出削減目標の達成に向け、船舶の省エネ・省CO₂技術の性能を見える化する目的で運用開始した評価

制度です。船舶の環境性能を基準値から何パーセント改善したかに応じて、星1つ（改善率0～5％）から5つ（改善率20％以上）まで評価されます。

名古屋～豊橋～鹿児島～那覇航路を運航している「ふがく丸」は、同名の旧型船と比べてCO₂排出量を約30％削減したことが評価されました。

モーダルシフト等推進事業で事例紹介

フジトランスグループが参画するモーダルシフトの取り組みが、国土交通省中部運輸局の2024年度モーダルシフト等推進事業の活用事例として取り上げられました。この事例では、愛知県から東北地方までトラックで輸送していた区間の一部をフジトランスグループの内航RO／RO船による海上輸送に

転換することで、長距離ドライバー不足に起因する「物流の2024年問題」への対応やトラック輸送で排出されるCO₂の削減を推進します。

FC換装型トランスファークレーン導入

㈱フジトランス コーポレーションは、トランスファークレーン1台の老朽化に伴い、動力源を水素燃料電池（FC）に換装可能な新型を導入しました。このトランスファークレーンは、ディーゼル発電機とリチウムイオンバッテリーで構成されたハイブリッド仕様で燃費が従来機の約4分の1になるため、環境負荷を大幅に低減できます。将来的にはディーゼル発電機を水素燃料電池（FC）に換装することで、脱炭素を実現できます。

FC換装型のトランスファークレーンが導入されるのは、名古屋港では初めてです。



導入したトランスファークレーン

豊橋支店 BELS認証取得

愛知県三河港にある㈱フジトランス コーポレーション豊橋支店の事務所を老朽化に伴って建て替えました。安全性の向上を目指して耐震・災害対策を施したほか、屋上にソーラーパネルを備え、建築物省エネルギー性能表示制度（BELS）の認証を取得しました。



完成した新事務所

トラックの燃料をCNGからLNGへ転換

(株)フジトランス コーポレーションのタイ法人 FUJITRANS (THAILAND) CO., LTD.は、保有する圧縮天然ガス(CNG)燃料のトラクターヘッド8台のうち3台を液化天然ガス(LNG)燃料に転換しました。

ディーゼル車よりもCO₂排出量が2～3割少ないCNGは、かつてタイ政府の補助金政策によって普及しました。しかし、補助金の終了を受けて需要が減少しています。

LNGへの転換により、燃費がCNGと比較して約6割向上するほか、CO₂やNOx(窒素酸化物)の排出量もCNGより低減します。



CNGタンクの代わりにLNGタンクを搭載したトラック

アマモ場造成

(株)フジトランス コーポレーションは、伊勢湾におけるアマモ(海草)場の造成事業で東亜建設工業(株)と業務提携契約を締結しました。

この取り組みは、両社のサステナビリティ方針の共通点である「カーボンニュートラルの達成に向けた異業種連携」によるプロジェクトです。「海のゆりかご」と呼ばれ海洋生物にさまざまな恩恵をもたらすアマモ場を造成

することで、伊勢湾内の水質浄化能力の向上、水産資源の維持増大と生産の安定を図ります。また、アマモ場の拡大によりCO₂の吸収量を増やすことで、ジャパンプルーエコノミー技術研究組合が認証・発行する「J」ブルークレジット®の創出を目指します。



採取したアマモの種子



水槽で育てたアマモの苗

カーボンオフセットクレジット調達

(株)フジトランス コーポレーションは事業で排出するCO₂の一部を相殺するため、カーボンオフセットクレジットを定期的に調達しています。調達するクレジットは、基本的に森林由来のものです。河川を通じて海につながる森林を間伐などで適切に整備することによってCO₂の吸収を促すとともに、林

業の支援や災害に強い国土の維持も意識しています。

購入したクレジットの一部は、新入社員研修や行事によって排出するCO₂のオフセットに使用しています。



環境保全と 資源の循環利用の最大化

事業活動で利用する資源を低減し、排出するゴミを削減します。

環境負荷の低い事業活動を心掛け、森林や海洋の環境も適切に保全します。

環境方針の
詳細はこちらへ



環境マネジメントシステム

環境方針に基づいて、事業所や船舶の一部でISO14001環境認証を取得しています。毎年、内部監査および外部審査を行い、マネジメントシステムが適正に機能していることを確認しています。

[ISO14001 認証取得サイト一覧]

会 社	事業所・所有船舶
(株)フジトランス コーポレーション	・本社 ・九号地事業所 ・金城オペレーションセンター ・空見物流センター ・金城物流センター ・豊橋支店 ・RO/RO船「ふじき」 ・RO/RO船「ふがく丸」 ・RO/RO船「蓉翔丸」 ・RO/RO船「清和丸」
(株)オーシャン リンク	名古屋事務所

名古屋市 市内一斉緑化活動

(株)フジトランス コーポレーションは、名古屋市が行う市内一斉緑化活動に参加しました。この活動は、より多くの種類の生物が訪れ、生息できるように配慮した緑化を増やすことで、分断された生物の棲み処をつなぐ取り組みです。参加企業に配付される在来植物の中から、当社では昨年度に続いてアジサイを選択し、本社敷地内の花壇に植樹しました。



苗木の植樹



開花したアジサイ

食品残渣の有効利用

(株)フジトランス コーポレーションは、フードロス削減の取り組みとして本社食堂から出る食品残渣を肥料化し、敷地内の花壇で有効活用しています。

2024年度はこの花壇の一角でバジルを栽培し、有志の社員が水やりなどの世話を担当しました。収穫したバジルは、本社食堂のメニューで使用し、社員に提供しました。



花壇で育てたバジルと、使用されたメニュー

グリーンオリエンテーション

フジトランスグループの事業の柱の一つである内航海運業にとって、海は重要な事業フィールドです。そして、その海に栄養分を供給する河川の上流にある山林も大切な環境だと考えています。そうした森林を健全に保ち、生物多様性を保全するため、㈱フジトランス コーポレーションは北海道共和町に約177haの森林を所有しています。

フジトランスグループのマスコットキャラクターの愛称から「フジツブの森」と名付けられたこの森は、取得時点で樹木の薄い場所が含まれていました。そのため、二酸化炭素の吸収源となることを期待して人工林を整備し、天然林と併存させています。2022年には、地元森林組合と連携して持続可能な森林として保全していることから、国際的な森林認証制度「SGEC」の認証を取得しました。

また、この森は新入社員の環境教育の場としても活用しています。地元振興局の協力のもと、森林教育や森林の管理をお願いしている地元森林組合の方に指導いただき、植樹や除伐の体験を行っています。



ご指導いただきながら不要な枝を剪定

水源林見学会

岐阜県中津川市で、有志社員による水源林見学会を行いました。地元森林公社・森林組合の協力のもと、樹木の生育状況や立木密度を調査しながら森林保全の重要性を説明していただいたほか、間伐作業も体験しました。

この森は、㈱フジトランス コーポレーションが調達しているカーボンオフセットクレジットを創出している場所です。また、名古屋港に注ぐ木曽川の上流域に位置しているため、当社が事業を行う環境に密接に関連しています。



間伐した木の年輪を調査



森林の健全さを判断するために木の直径を計測する社員

周辺美化活動

㈱フジトランス コーポレーションは、ISO14001(環境)の環境美化活動の一環で事務所周辺を清掃しています。各拠点から参加者を募り、落ちているゴミを拾い集めています。

本社の夏季の活動では、本社近くのガーデンふ頭で毎年開催される「海の日名古屋みなと祭」の後に実施しました。普段よりたくさんのゴミが散乱する祭りの翌日は、当社以外の近隣企業も同様に清掃を行っていて、連携して取り組みました。



九号地事業所での清掃



本社地区での清掃に参加した社員

干潟の清掃

サステナビリティ推進室員、新入社員、ボランティア参加の社員が、愛知県の藤前干潟で開催された清掃イベント「藤前干潟クリーン大作戦」に参加しました。

藤前干潟は伊勢湾の最奥部にあり、当社事業所が多数立地する名古屋市港区と飛島村にまたがっています。日本有数の渡り鳥の飛来地としてラムサール条約(※)と国指定鳥獣保護区に登録されています。しかし、大量のゴミが河川や海から流れ着くため、市民団体を中心に清掃活動が行われています。

※ラムサール条約：正式名称は「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」。地下水系、浅海を含む広範な対象の湿地を対象に、保全と適正な利用を図ることを目的としている。



地域の方々と協力してゴミを収集

足船清掃

名古屋港内で現場間の移動に使うポート(足船)に乗り、水面を漂うゴミを回収しました。

実施した9月26日は、1959年に伊勢湾台風が本州に上陸した日です。名古屋港も甚大な被害を受け、特に海面貯木場から陸地に大量の木材が流出し、被害が大きくなりました。その際、㈱フジトランス コーポレーションは木材の撤去に奔走して地域の信頼を得たことから、毎年この日に水面清掃を行うようになりました。

各本部の代表者が㈱フジトランス コーポレーション本社事務所にほど近い名古屋港ガーデンふ頭、自社内航船舶の拠点である潮見ふ頭のQ2・BQ・BQ2岸壁、ガーデンふ頭に注ぐ堀川の下流域をポートで巡り、浮遊するゴミをタモ網で集めました。



タモ網で浮遊するゴミをキャッチ



参加した社員

フィリピン海岸清掃

FUJITRANS LOGISTICS PHILIPPINES, INC.(以下、FTLP)の社員132人が、海岸清掃活動に参加しました。

参加したのは、国際的な海洋環境保護活動のひとつであるINTERNATIONAL COASTAL CLEANUP DAYに合わせてフィリピン各地の海岸で行われたCOASTAL CLEAN-UP DRIVE 2024です。FTLPの内航RO/RO船が寄港するバタンガス、イロイロ、パコロド、セブ、カガヤン・デ・オロ、ダバオの各港付近の海岸に社員が集い、2,000kg以上のゴミを収集しました。



バタンガスでの清掃に参加した社員

健康経営による 働き方改革の促進

従業員にとって働きがいのある職場を提供します。また、多様な働き方に配慮し、安定的な雇用を維持します。

健康

健康経営宣言－社会のエッセンシャル企業として－

企業経営の基盤となる社員の健康を守ることは、企業の持続的な活動、発展の原動力です。当社は社是である『『和』の精神』に基づき組織全体で、社員一人一人が心身ともに健康で、働きがいのある活気あふれる職場づくりを推進し、社員とその家庭に安心を与え、社会・地域に貢献する企業を目指します。

健康相談会

社員一人ひとりが健康で生き生きと働けるよう、当社では個別健康相談の機会を設けています。健康診断の結果に基づき、保健師に相談できる体制を整えているほか、保健師による健康セミナーも定期的に開催しています。2024年度は、本社地区の各事業所で3つのテーマのセミナーを実施しました。

- 7月 「野菜摂取から考える食生活について」
- 9月 「発達凸凹×あなたはどのタイプ?～発達凸凹から職場をみる～」
- 1月 「知っていますか 脳の働き～簡単チェックで知る脳年齢～」

ストレスチェック

フジトランスグループでは社員一人ひとりの心身の健康を重要な経営課題と捉え、年に一度、全社員を対象としたストレスチェックを実施しています。

ストレスチェックは、労働安全衛生法で義務付けられている心理的な負担の程度を把握するための検査です。受検結果は心身のストレス反応、仕事のストレス要因、周囲のサポート状況の3つの観点から集計・数値化され、受検者本人に詳細な傾向とアドバイスが伝えられます。受検した社員は、結果を通して自身のストレス状況や課題を把握し、健康管理に役立てています。

ハラスメント防止講習

フジトランスグループでは、ハラスメント防止基本指針のもと、ハラスメントに関する知識や防止のための対策を学ぶ場としてハラスメント防止講習を定期的に行っています。社員一人ひとりがハラスメント撲滅への意識を持ち、ハラスメント行為を起こさない・起こさせない職場環境の構築を図っています。

また、万が一、問題が発生した場合に備え、ハラスメントに関する相談窓口を社内・社外に設置しています。

「2024年問題に関するシンポジウム」に登壇

名古屋南労働基準監督署と一般社団法人名古屋南労働基準協会が共催した「2024年問題について考えるシンポジウム」に、(株)フジトランス ライナーの社員が登壇しました。

シンポジウム内では、運送業界、医療業界、建設業界の代表者がパネリス

トとして参加し、パネルディスカッションが行われました。運送業界の代表として登壇した(株)フジトランス ライナーの社員は、他の代表者らと共に、2024年問題や女性が働きやすい職場環境について議論を交わしました。また、業界ごとの課題や顧客との相互理解の重要性についても意見を述べました。

DX

DXの推進

フジトランスグループでは、中期経営計画の達成に向けた手段の一つとしてDX(デジタルトランスフォーメーション)に取り組んでいます。DX方針に基づき、業務プロセスを改善し刷新する「改善DX」と、新たなビジネスモデルを創出する「戦略DX」の二つのステップで進めています。具体的には

各事業本部・各グループ会社がそれぞれDXチームを組成し、事業セグメントに応じて個々に取り組んでいます。

2024年5月には、経済産業省が定めるDX認定制度に基づき、DX認定事業者に認定されました。

DX方針の
詳細はこちらへ



安全

「ゼロ災」キャンペーン

全国の事業所を対象として、安全衛生協議会主催による「ゼロ災」キャンペーンを年2回実施しています。「全ての事故ゼロ」を目標に、従業員一人ひとりの安全意識を高め、安全で安心な職場づくりを目指す全社員参加の活動です。

キャンペーン期間中は、経営トップ層による現場点検や各専門委員会によるパトロールを実施しました。また、上期キャンペーンにおいては酷暑期の作業者を激励するため、下期キャンペーンにおいては寒冷期の作業者を労うため、役員が各拠点を巡回しました。

労働安全衛生方針の
詳細はこちらへ



スローガン

基本作業と正しい手順 すべての職場でゼロ災害

2024年度安全標語

みんなで挑み みんなで創ろう 安全安心職場

熱中症予防キャンペーン

毎年5月から9月までの間、「熱中症予防キャンペーン」を実施しています。このキャンペーンは、熱中症の症状を理解し、予防と有事に備えた活動を浸透させる取り組みです。

各事業所では、啓発ポスターの掲示や熱中症予防に関する映像教材を使った教育で社員に注意を促しています。また、経口補水液や瞬間冷却材などの熱中症予防グッズを配付しています。

安全輸送強化キャンペーン

輸送中の事故や災害を未然に防止するため、輸送委員会と安全推進室が連携し、安全輸送強化キャンペーンを行っています。輸送委員会はコンテナ輸送部会と貨物輸送部会の2つから成り、主に陸上輸送における安全を管理しています。キャンペーン期間中には、基本動作や現場ごとの導線、トレーラーの安全点検、災害防止対策を周知しました。また、役員を交えて各現場をパトロールし、安全輸送が徹底されているか確認しました。



コンテナターミナルでのパトロール



新人乗務員のフォークリフト教育

交通事故撲滅キャンペーン

フジトランスグループ全体で交通事故撲滅キャンペーンを実施しました。この取り組みは、グループ全体の交通事故の抑制と、従業員一人ひとりの交通安全意識の向上を目的とするものです。

活動の一環として外部から専門家をお招きし、交通安全に関する講話会を開催しました。講話会では、近年の交通事故の発生状況や要因について詳細な説明があり、実際に発生した事故事例を基に具体的な対策についてご指導いただきました。



受講するグループ社員

地震発生時の安否確認

フジトランスグループでは、防災訓練を定期的に行っています。その一環として8月と3月に、南海トラフ沖を震源とする広域地震が発生し、インフラが機能不全に陥ったと想定し、社員の安否と各事業所の被害状況を安否確認システムで確認する訓練を行いました。

本社に立ち上げた対策本部では、社員から続々と寄せられる報告をまとめ、被害状況の把握に努めました。また、海の近くに立地する事業所が多いため、地震に伴う津波を想定した避難訓練も実施しました。